

令和6年度 小名浜西小学校学力向上グランドデザイン

教育目標

かがやけ
考える子ども (知)
がんばる子ども (意)
やさしい子ども (情)
元気な子ども (体)

学校スローガン

「かがやけ 小滝っ子」

①子どもと子どもがともに学び合う ②教師と教師がともに高め合う ③学校と家庭・地域がともに協力し合う

【めざす児童像】 かがやけ小滝っ子！ 感受し、思考・判断し、行動できる子



「学校が楽しい」といえる学校 ～ 一人一人が自己有用感をもてる学校づくり ～

- I 校内研修の充実 (①一人一授業研究の実践 ②子どもの学びに視点を置いた授業研究 ③全員参加による研究協議の工夫・改善・充実)
II 児童・教師ともに一人一人が生かされ、支え合える学校文化の醸成 (個々の役割意識の育成、生徒指導及び特別支援教育に係る相談体制の充実)



- ・RV-PDCA(I) サイクル (R 実態把握ーV 見通しーP 計画ーD 実践ーC 評価ーA 改善) を生かした授業およびその他の教育活動の実践
- ・日々の授業及び校内授業研究時における「授業スタンダード」と関連づけた指導のポイントの確認及び授業力の向上へ向けた取り組み
- ・すべての授業の基盤となる「学びの構え」の定着を図り、「聴く力」と「伝え合う力」の育成に重点的に取り組む校内体制の構築

【「学びの構え」の形成】

- ※ 『学びの構え』の育成～達成率向上を目指す
(教師・児童へのアンケート調査の実施及び検証)
- ・「聴き合う態度」の育成～達成率向上を目指す
(教師・児童へのアンケート調査の実施及び検証)
 - ・伝え合い、表現する力を育てるための指導の工夫
(教師・児童へのアンケート調査の実施及び検証)

【学びの環境整備・図書館教育の充実】

- ・学びの基礎となる、感受する力、思考・判断する力、表現する力の育成のため、校舎内の掲示物の環境整備を進め、読書活動の推進を図ります。
- ・「学習情報センター」としての学校図書館の充実
(読書活動、読書量及び学校図書館の利用率の向上)

「学び」の質を高めるために

日々の授業の充実

- 目標 「わかる・できる」(Yes,I can!) が実感できる授業～自己存在感、自己有用感の得られる授業の追求～
- 内容 RV-PDCA サイクルによる日々の授業の実践
R (Research) ・ V (Vision) ・ Plan ・ Do ・ Check ・ Action
- 方法
 - ・「学びの構え」に基づいた学びの習慣づくり
 - ・「授業スタンダード」の具体化と実践化
 - ・一人一日1回以上の発表機会の設定
 - ・ペア・グループ等の学習形態の工夫・改善
 - ・言語活動の充実を図る授業の工夫及び改善
 - ・効果的な T・T 指導の実施
 - ・RV-PDCA サイクルに基づく授業の振り返り

【校内研修の充実】

- ・年間を通しての「教師の学び」の追求 (課題→実践→評価)
- ・一人一授業研究 (年間1回以上) の実践と評価を目指す
- ・子どもの「学びの姿」に視点を当てた研究協議と校内授業研究の実践 (学び合う教師集団の形成)
- ・聴き合い、学び合う活動に視点を置いた授業研究
- ・各学年やブロックを軸とした研究運営体制の構築
- ・外部講師の活用

【学校と家庭との学習サイクルの構築】

- ・「ふくしまの家庭学習スタンダード」に基づいて学習の習慣化を図り、保護者の意識高揚と学力向上を目指します。
- ・学年の発達段階に応じた家庭での学習習慣の形成
- ・授業での理解に結びつく課題設定のあり方の追求
- ・学校日より「小滝っ子」発行及びHPによる配信
- ・家庭学習チャレンジ期間の実施 (年3回)

学級経営の充実

確かな学力の向上

生徒指導の充実

自校の学力面における教育課題

- ・基礎学力の向上 (基礎事項の確実な習得及びそれに基づいた活用能力・表現力などの育成) → 「授業スタンダード」に基づいた授業の実践及び指導力の向上
- ・話をしっかり聴く態度や姿勢及び自らの考えをまとめて発表できる思考力・表現力の育成 → 「学びの構え」の定着、「学び合う態度」の育成、学習ノートの充実
- ・生徒指導の徹底と自らの課題や家庭学習に継続的に最後まで粘り強く取り組む態度の育成 → 児童の問題行動への学年全体の取り組みと「家庭学習スタンダード」の実践